

平成 29 年度 西宮市公共事業評価シート

【1次評価結果】

実施予定年度	H 28 年度 ~ H 34 年度				
事業名	春風小学校教育環境整備事業	実施箇所	上甲子園3丁目8-39		
担当部署	局 教育委員会	部・室	教育総括室	課	学校施設計画課
総合計画	1部 まちづくり	2章 すこやか・はぐくみ	14節 計画的・効率的な学校施設運営		

事業の目的	〈事業実施の背景となる問題・ニーズ〉 春風小学校は、児童の増加に伴う教室不足(仮設校舎8教室設置)や児童1人あたりの運動場面積が不足しており、今後も、児童は増加傾向である。また、昭和30年代築の校舎の老朽化も著しい。本市小学校の中でも優先的に教育環境を整備すべき学校と位置づけている。					
	〈対象〉 児童、学校関係者、地域住民					
	〈成果(対象をどのような状態にしたいか)〉 校舎の増改築を行うことで、教室不足や運動場不足を解消し、教育環境の改善を図る。また、災害時の地域の避難所としての機能もあわせて整備し、地域住民の安心安全に寄与する。					
	指標名(代表的なもの)	最終目標値設定の考え方・根拠	目標年度	単位	現在値	最終目標値
	基本設計実施設計	学校や地域住民との協議により基本設計実施設計を策定	%	0	0	100
	校舎増改築工事進捗	改築校舎の竣工時期が重要なポイント	%	0	0	100
事業の目的・内容	計画概要 春風小学校教育環境整備事業 ・施設規模 : 鉄筋コンクリート4階建て ・延床面積 : 校舎 約9,200㎡・育成センター 約600㎡ ・竣工時期 : 平成34年度予定 ・整備対象 : 体育館棟を除く校舎全面改築 併せて育成センターの増改築を予定 ・運動場面積 : 約7,950㎡→約8,450㎡に拡大 ・延床面積 : 約9,200㎡ ・対応学級数:30学級(通常学級)に拡大。特別支援学級は現状と同じ4学級 ・その他 : 津波時の避難を想定して屋外階段の設置、太陽光発電設備の整備、校舎位置変更による近隣への配慮 ・実施根拠 : 平成27年2月公表「優先度の高い学校の選定」で優先度の高い学校として選定					
	スケジュール	年月または年度	取組内容			
	平成28年度以前	基本計画着手				
	平成29年度	パブリックコメントの実施、基本計画策定、基本設計実施設計着手、耐力度調査、地質調査				
	平成30年度	基本設計実施設計				
	平成31年度	解体工事(先行)、改築工事着手				
	平成32年度	改築校舎竣工、仮設校舎撤去、既存校舎解体工事着手				
	平成33年度以降	既存校舎解体工事、外構整備、育成センター整備、運動場整備				

事業計画	予定事業費	4,203,525 千円	左記の内 国県支出(千円)	62,108	起債+一般財源(千円)	4,141,417
	事業による経済効果等	費用便益比(B/C) = [国の指定算出方法に準拠] (算出が困難な場合は、期待される効果のみを記述) 校舎改築による教育環境の改善として、老朽校舎及び教室不足や運動場不足の解消、災害時の地域の避難所として、地域住民の安心安全への寄与が挙げられる。				

必要性	昭和30年代築校舎の老朽化は著しく、教室不足や運動場不足の状況から、教育環境の改善が必要である。特に、現状の南校舎棟は2階部分に廊下がない古い建築形式なため、車椅子での教室移動が困難な状況である。
合理性	増改築することで、教室不足や運動場不足に対応 地域の避難所としての機能
効果1	既存校舎の建替えのため用地取得は必要なく、立地については問題ない。建築物の規模についても、現状は教室数が足りず、仮設校舎を設置している状況であるが、建替後は必要な教室数に加えオープンスペース等を確保した施設整備を行う。
効果2	【地域性・防災性】 地域の避難所としての機能を果たすため、校舎内に備蓄倉庫を確保し、津波避難を想定した屋上への津波避難階段を確保、災害時トイレを整備する。地震だけではなく、津波からの避難も想定し改築校舎を4階建てにする。開かれた施設整備として、ランチルームは、地域団体等の利用に配慮した設計を検討する。
	【環境保全性】 太陽光発電設備の設置や積極的な緑化に取組む。また、発電量をパネルに表示し環境学習に活用できるよう計画する。自然採光・雨水の利用など自然の恵みを活用する仕組みを取り入れる。環境共生、生態系を学ぶ場としてヒートアップ等の設置を検討している。 【機能性】 障害の種類や程度に配慮した教室配置を計画する。難聴学級は防音・遮音性の観点から二重サッシの窓を計画し、肢体不自由学級はエレベーターや保健室への動線を考え配置を検討しており、回廊型の校舎内とすることで、車椅子等で移動しやすくなる。また、多目的トイレも整備する。
懸案事項等	事業を実施しない場合の懸案事項等
	昭和30年代築校舎の老朽化は著しく、教室不足や運動場不足の状況から、事業を実施しない場合は教育環境の改善ができない。現状の南校舎棟は2階部分に廊下がない古い建築形式なため、車椅子での教室移動が困難である。また、地域の避難所としても整備が必要である。
	事業を実施した場合の懸案事項等 ・近隣への影響として、校舎位置変更により、東側近隣へは校舎の圧迫感や日影の影響が生じるが、校舎離隔を確保すること等で、軽減を図る。 ・運動場が敷地南側へ整備されるため、南側近隣へ砂埃の影響が懸念される。対策として土壌改良剤の施工や植栽の整備を計画。 ・工事中の運動場面積は、現況運動場面積の約4割程度の広さとなる。地域の理解を得ながら、北側の瓦林公園を学校活動で使用を想定。 ・期中は振動・騒音等が学校の教育環境や周辺環境へ影響することとなるため、理解と協力を得ながら進めていく。現在のところ、工事車両は西・北・東側からの侵入を想定しており、具体的な運行ルート等は、工事業者が決定した上で、工事説明会を開催し、周知を図る。

平成 29 年度 西宮市公共事業評価シート

事業名	春風小学校教育環境整備事業
-----	---------------

【 2次評価結果 】

[1:計画どおりの実施が望ましい 2:計画の一部見直しが望ましい 3:計画の大幅見直しが望ましい 4:実施の見送り、中止が妥当である]

評価委員会 の総合判断	1	計画どおりの実施が望ましい
	評価委員会の総合的な意見	
	<p>標記事業については、実施は妥当と判断する。 ただし、事業の実施にあたっては、以下の意見を附す。</p> <p>(1) 将来的に予想される空き教室の活用について、設計段階で十分検討すること。 (2) 基本計画の「学校づくりの方針」において示されている「地域に根ざした学校づくり」の具体的な内容について検討すること。</p>	